



社会の変容にどのように対応していくか

～JR連合「第14回政策シンポジウム」を京都市で開催～

あいさつに立つJR連合荻山市朗会長



首藤若菜氏(立教大学教授)を迎え
パネルディスカッションを繰り広げる

JR連合は、一〇月三日(火)京都市・京都テルサにて「第一四回政策シンポジウム」を開催しました。JR連合荻山市朗会長は開会の挨拶にて「昨今の社会変容にJR全体でどのように対応すれば、JR産業の発展につながるのか考えて行くことが肝要」と述べられました。第一部では基調講演として「連合」をはじめメディアでも多数出演されている立教大学経済学部教授の首藤若菜氏を招聘し「雇用情勢の変化への対応と、労働組合の役割」について課題提起がありました。

第二部の「単組報告」では、JR単組、グループ労組からそれぞれ自社の労働条件や人材の確保などについての現状と課題認識について報告がなされました。



パネルディスカッションに臨む首藤教授とパネリストの皆さん



首藤教授(右)と榎裕執行委員(左)

第三部のパネルディスカッションでは、首藤教授をコーディネーターに「多様化する組合員の価値観とニーズへの対応」「多様な人材の活躍に向けた諸制度・就労環境の創出」「離職への対応」などをテーマに議論が展開されました。JR東海ユニオンからは、榎裕文野中央執行委員がパネリストとして登壇し、組合員の声に基づいた現状の課題、今次「基本協約改訂交渉」における前進などについて発言されました。さらに「各社とも要員配置は真に適正水準なのか」「若手・子育て世代・介護世代・高齢者それぞれの均等待遇を如何に確保していくのか」など、議題の本質に迫る議論も飛び交い大いに盛り上がりしました。

第四部ではJR連合・宮野企画局長より「新中期労働政策ビジョン」策定に向けた現状と課題について報告と提起がなされたのち、JR連合労働政策委員長の尾内副会長(JR東海ユニオン中央執行委員長)より「JR産業の隆盛を維持していくため総掛かりの取り組みを」と挨拶され、熱気あるシンポジウムは幕を閉じました。